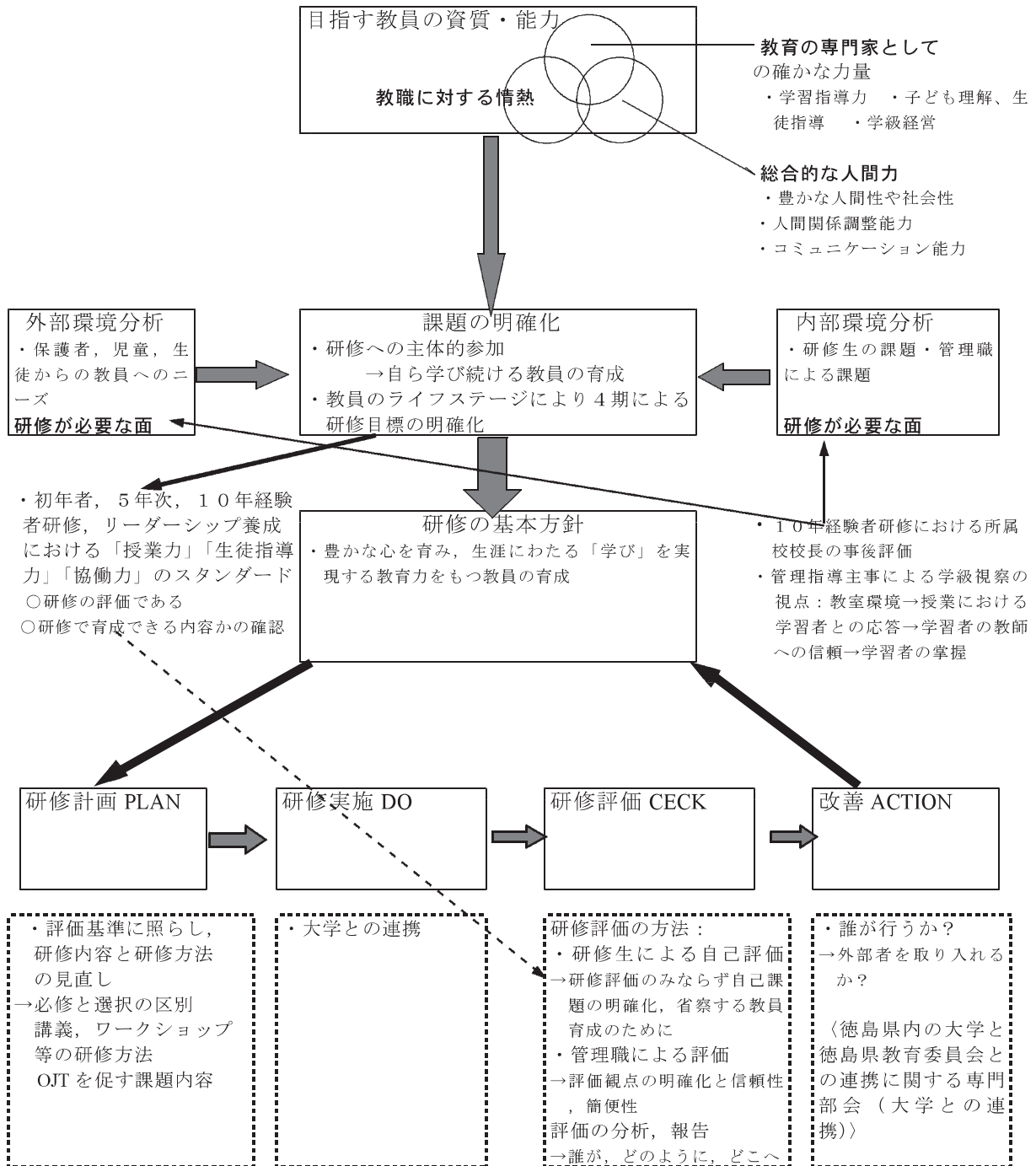


研修プログラム例
(作業課題と評価基準)

授業力を培う校内研修のあり方 ーワークショップを通してー

梅津 正美 (鳴門教育大学)

I. 教員の研修・評価のための基本枠組み



(出所：鳴門教育大学教員研修評価・改善システム開発プロジェクト (主査：梅澤 実) 作成)

Ⅱ. ワークショップー「教科の授業力養成」研修モデル（梅津試案）ー

1. 講座名 授業力養成講座ー授業実践の分析と改善ー

2. 研修の目的

本研修は、学校における教科授業を展開するために必要な基礎的・基本的な理論と実践の技術・方法を、「授業力評価スタンダード」にもとづき、教育現場での実践的な指導過程を分析あるいは自ら体験することを通じて習得することを目的とする。

3. 研修の内容

- ① オリエンテーション（講義・演習）
（研修の目的と内容についてのガイダンスを行い、受講生の学習の構えをつくる。）
- ② 自己の授業観の相対化（対象化）
（優れた授業とはどのようなものか、なぜその授業を優れていると評価・判断するかについて、授業の事実を根拠にしながら議論することを通して、自己の授業観の相対化を図る。）
- ③ 授業力の内容と評価指標ー授業力評価スタンダードの構成の論理とその意義ー（講義）
（授業力の教育評価および自己評価のための段階指標である授業力評価スタンダードの構成の論理と意義を明確にする。）
- ④ 授業力評価スタンダードにもとづく授業分析（1）ー授業構想力評価の観点からー（演習）
（受講生が構想した学習指導案とそれにもとづく実践を事例にして、授業構想力スタンダードを参照点にそれを分析・評価・改善していく。）
- ⑤ 授業力評価スタンダードにもとづく授業分析（2）ー授業展開力評価の観点からー（演習）
（受講生の模擬授業（マイクロティーチング）に対して、授業展開力評価スタンダードを参照点にそれを分析・評価・改善していく。）
- ⑥ 授業実践力評価スタンダードにもとづく授業分析（3）ー授業評価力評価の観点からー（演習）
（受講生の模擬授業に対して、授業評価力評価スタンダードを参照点にその授業の特質・限界・類型を明確にしていく。）
- ⑦ 授業研究演習（1）ー授業研究報告書の作成ー（演習）
（受講生が構想した学習指導案を基盤にして、授業研究報告書を作成する。）
- ⑧ 授業研究演習（2）ー授業研究会の展開と改善ー（演習）
（公開された授業と研究発表に対して議論するとともに、その成果をふまえて自己の授業研究報告書を改善する。）

4. 作業課題とその達成状況に関する評価基準

作業課題（1）：「授業構想力＋授業評価力」を培うために、次の作業課題に取り組む。

〈研修内容④⑥に対応〉

- ①指示された教科の単元主題について学習指導案を作成する（研修前の課題）。
- ②受講生のうち一人が自分の作成した学習指導案にもとづいて模擬授業を展開する。
- ③他の受講生は、「授業の批評と改善」シートにもとづいて授業を分析・評価する。
- ④議論1：実践された授業に内在する授業者の授業構成論（その授業は、実際にどのようなようにつくられているか）と目標論（その授業は、実質的に子どもにどのような見方・考え方、資質能力を培うことができるか）を確定する。
- ⑤議論2：自分なりの目標論・授業構成論から実践された授業とその構想を評価するとともに、改善案を具体的に指摘する。

評価基準

- S. 目標論・授業構成論・授業実践の事実の関わりから複数の授業（構想）の類型が存在していることを理解して、構想・実践された授業を類型に位置づけるとともに、子どもの学びの実際に照らして、その特質と課題、改善点を具体的に指摘できる
- A. 構想・実践された授業を、目標論・授業構成論・子どもの学びの一貫性・整合性という観点から捉え論評し、改善点を具体的に指摘できる。
- B. 教育目標と子どもの学びの実際に照らして、構想・実践された授業を論評し、改善点を具体的に指摘できる。
- C. 構想・実践された授業に対するを論評や改善点の指摘が羅列的で、断片的である。

作業課題（2）：「授業展開力」を培うために、次の作業課題に取り組む。

〈研修内容⑤⑥に対応〉

- ①指定された学習指導案について、授業展開力に関わる次の項目を観点とする指導細案を、受講生3～4名のグループで構想する。
 - a. 教授・学習過程における教師と子どものコミュニケーション（説明・助言・指示 演技性・発問・子どもの発言・行為への対応 など）
 - b. 教材・教具の作成と活用
 - c. 板書の構成・活用
 - d. 学習評価の実践
- ②上記a～dを観点に、グループの1名が実践者として立ち、マイクロティーチングを実施する。
- ③「授業の批評と改善」シートにもとづいて実践された授業を分析・評価し、改善点を述べる。

評価基準

- S. 目標・内容・方法に関わる授業の構想が、クラス全体だけでなく個の特性にも配慮し、子どもの学習成果として結実するように授業展開・技術を工夫し実践できている。
- A. 目標・内容・方法に関わる授業の構想が、クラス全体に伝わり子どもの学習成果として結実するように授業展開・技術を工夫し実践できている。
- B. 授業内容に対するクラスの子どもの納得や理解を促すように授業展開・技術を工夫し実践できている。
- C. 授業内容に対するクラスの子どもの納得や理解を促すように授業展開・技術を工夫し実践することができていない。

作業課題（3）：「授業研究能力（授業構想力＋授業展開力＋授業評価力＋論文構成力）」を培うために、次の作業課題に取り組む。

〈研修内容⑦⑧に対応〉

- ①研修前に各自が作成してきた学習指導案をたたき台に、「授業研究ワークシート」にもとづいて授業実践に関する研究報告書をまとめる。
- ②県統一研究会等学校現場で実施されている授業研究会の形式を模して授業実践者と研究発表者を定め、模擬授業研究会を開く。
- ③公開された授業と研究発表に対して議論するとともに、その成果をふまえて自己の授業研究報告書を改善する。

評価基準

- S. 授業研究の目的・定義・動機（問題意識）・先行研究に対する位置と意義・授業構成論・授業計画書（学習指導案）のつながりが一貫した論理でまとめられているとともに、学校現場で実施可能な授業研究になっている。
- A. 授業研究の目的と授業構成論、授業計画書（学習指導案）が一貫した論理でまとめられているとともに、学校現場で実施可能な授業研究になっている。
- B. 授業研究の目的を実現する方向で授業計画書（学習指導案）が構想されており、学校現場で実施可能な授業研究になっている。
- C. 授業研究の目的と開発された授業計画書（学習指導案）との結びつきが不明確で、授業研究計画が実践に移しにくいものになっている。

中学校家庭科の授業実践

2008年5月29日(木) 1限(9:00～9:50)

指導者：

1. 主題「衣服の手入れと補修をしよう：①手入れの必要性について考えよう」

2. 授業実践の事実

教師からの指示・発問・説明	教授・学習活動	生徒の応答・学習内容
<p>① 1日の生活の中で、衣服にはどんな汚れがつくか</p> <p>② 衣服についての汚れを1週間ほっておいたらどうなると思いますか。</p> <p>③ 汚れをほっておいたらどうなるか、みんなの意見をまとめてみます。</p> <p>④ 衣服の手入れの仕方にはどんなことがありますか。</p> <p>⑤ 洗濯するときどうしますか。洗剤を入れると汚れがよく落ちますか。</p> <p>⑥ MQ. 洗剤にはどのような働きがあるのだろうか。実験をして確かめてみましょう。</p>	<p>T. 発問する P. ワークシートに書き込み、答える</p> <p>T. 発問する P. ワークシートに書き込み、答える</p> <p>T. 説明する</p> <p>T. 説明する</p> <p>T. 発問する P. 答える</p> <p>T. 本時の学習問題を提示する</p>	<p>・(衣服の外側には) 歯みがき粉, チョークの粉, 血が付く, 食べこぼし等。(衣服の内側には) 血, 汗, あか(皮脂)等。</p> <p>・くさくなる。色が落ちる。カビがくる。きたなくなる。虫がつく。</p> <p>・衣服に付いた汚れをほっておくと, 自分や周りの人にも不快だし, そのことで健康を害することもあります。また, 布やせんいの性能も低下します。だから, 衣服の手入れが必要なのです。</p> <p>・洗濯, ブラシ, アイロン等。</p> <p>・洗剤を入れる。 ・洗剤を入れると汚れがよく落ちる。</p>
<p>⑦ 水と洗剤水に、毛糸を浮かべるとどうなるでしょうか。</p> <p>⑧ 水と洗剤水に、油を入れるとどうなるでしょうか。</p> <p>⑨ 水と洗剤水に、えんぴつのしん(すず)を入れるとどうなるでしょうか。</p> <p>⑩ 水と洗剤水にすすを入れ、さらに、布をつけるとどうなるでしょうか。</p>	<p>T. 発問する P. 予想する T. 実験により検証する</p> <p>T. 発問する P. 予想する T. 実験により検証する</p> <p>T. 発問する P. 予想する T. 実験により検証する</p> <p>T. 発問する P. 予想する T. 実験により検証する</p>	<p>・水より洗剤水の方が毛糸が早く沈む。これを「浸透作用」という。</p> <p>・水と油は混ざらないが、洗剤水と油は混ざる。これを「乳化作用」という。</p> <p>・水では浮くが、洗剤水ではちらばる。これを「分散作用」という。</p> <p>・水につけると布に汚れがつくが、洗剤水ではつかない。これを「再汚染防止作用」という。</p>

<p>⑩ 実験を通して、洗剤がどんな働きをしているかまとめてみましょう。</p>	<p>T. 問題をなげかける P. 問題について考え、ノート(本来は、「まとめカード」)にまとめる。互いに意見を出し合い、クラス全体でまとめる。</p>	<p>・ M A. 洗剤には、「浸透作用」、「乳化作用」、「分散作用」、「再汚染防止作用」があるので、衣服の汚れを落とすことができる。</p>
--	--	---

3. 授業の評価と改善点

(1) 特色 (良かったところ, 参考になったところ)

① 授業構想について

- ・ 実験を組み込んだことが、子どもの理解を促すのに効果的だった。
→ 子どもの科学的思考を促す。
- ・ 4つの実験の配列が適切だった。
- ・ 授業全体の流れが、子どもの思考の流れにそっていた。
→ 授業構成がしっかりしていて納得のいくものだった。
- ・ 子どもの生活経験 (経験知) を授業構成に活かしている。
- ・ 子どもの興味・関心を引きつけ、かつタイムリーな教材の選択がなされていた。
- ・ 小学校と中学校の家庭科授業のなめらかな接続のあり方について学んだ。

② 授業展開・技術について

- ・ 黒板の字がきれいで、まとまっている。
- ・ 子どもたちにまとめを記述させる「まとめカード」の活用は有効だと思う。
- ・ 「ヒントカード」も参考になりそう。
- ・ 教師の明るくいきいきした表情・態度が子どもを引きつけていた。
- ・ 教師の話術が巧みであった。
- ・ 子どもの回答を適切に受け、返していた。

(2) 改善点

- ・ 時間の制約上やむを得ない面もあったが、子どもを実験に参加させる場面を設けたら良かった。
- ・ 子どもが「なぜ」と思う内容を、教師が説明していた。子どもの「なぜ」を引き出す工夫、疑問・予想をもっと活かす工夫があれば、思考力の育成という点でもっと良かった。
- ・ 「なぜ」を連続させる工夫が必要。
- ・ 洗剤の商品名は隠した方がよい。実験で毛糸を選択した根拠を明示するとよい。
- ・ 思考を練り合う時間がもっと必要だった。
- ・ 子どもの思考を促すためには、仮説の「検証過程」(洗剤を入れると汚れが落ちる (仮説・予想) → 実験 → ○○○だから落ちる (検証))として授業を組むよりも、「反証過程」(「洗剤を入れても汚れが落ちない (落ちにくい) ことがあるのはなぜか」を M Q)として組んだ方が有効ではないか。

「授業研究ワークシート」(ひな形)

目的	1. 研究の主題はなにか。研究の目的はなにか。 教育目標を示唆するキーワードはなにか。	
定義	2. 「〇〇」(キーワード)の概念内容はどのようなものか。 どのように定義(概念規定)されているか。	
動機	3. 「〇〇」は当該の児童生徒にとってなぜ重要な教育目標となるのか。今なぜ「〇〇」が要請されるのか。	
方法Ⅰ (分析)	4. 「〇〇」をめぐる先行研究はないのか。先行研究が明らかにしている到達点はなにか。 「〇〇」をめぐる、課題になっているのいかなることか。 本研究は、先行研究の課題をどのように克服しようとしているのか。	
方法Ⅱ (開発) (実践) (評価)	5. 「〇〇」はどのような授業構成論によって育成できるのか。 (1) 児童生徒に「〇〇」を育成するために内容(教育内容と教材)をどのように選択し構成しているのか。 (2) 「〇〇」を育成するために授業過程(広義には、子どもの認識過程を、狭義には、問いの構成を指す)をどのような論理で組織するのか。 (3) 学習法や学習形態はどのように選択し構成するのか。 6. 授業構成論に基づいて、実際にどのような単元(授業計画書)を開発できるのか。 授業構成論と授業計画書は一貫しているか。 授業構成論で用いられている概念や論理は、授業計画書の上で確定できるように示されているか。 7. 実践を通じて児童生徒はどのように反応したのか。 「〇〇」が育成されたとする根拠をどのように確定できるか。	
反省	8. 本研究の特質・意義と限界、残された課題はなにか。	

地理歴史科日本史B学習指導案

2008年5月9日（金）○限

指導者：梅津 正美（鳴門教育大学）

クラス：徳島県学校教員3年授業力研修組

1. 主題「歴史はいかに書かれるかー教科書の「元寇」記述から考えるー」

2. 本時の目標

- ①**思考目標**：鎌倉期の「元寇」と「新安沈船」を事例に、「歴史を記述する」という営みの意味とそれが私たちの歴史理解に及ぼす働きを吟味することを通して、メディア（言説）に対する批判的思考力を培う。
- ②**技能目標**：自分の歴史解釈（仮説）を、事実を根拠にして明確に述べるができる。
- ③**知識目標**：次の知識内容を理解し説明できる。
 - A. 13世紀後半以降の日元関係において、「国家」間の戦争とは裏腹に、民間レベルでは平和裡に、「国家」間交渉を超越した東シナ海を舞台とする海上交易ネットワークが繁栄していたことを理解する。
 - B. 歴史を認識し記述することとは、単に過去の事実を客観的に再現することではなく、歴史認識の主体の問題（価値）意識から、対象となる歴史事象について選択された事実を基盤に、事象の意味や意義についての解釈をメディア（言説）により構成し表現することである。

3. 本時の授業展開

教師からの指示・発問・説明	教授・学習活動	予想される生徒の応答・学習内容
<p>今日の授業は、「歴史の学び方を学ぶ」という観点から展開する。学習対象は、鎌倉期の「元寇」と「新安沈船」である。この2つの歴史事象を事例に、「歴史を記述する」という営みの意味とそれが私たちの歴史理解に及ぼす働きについて考えて行きたい。</p> <p>授業の主な学習問題は、次の2つである。</p> <p>◎「歴史を書く」とはいかなることか。</p> <p>◎「歴史を理解する」とはいかなることか。</p>	<p>T. 本時の学習問題を提示する</p>	
<p>いわゆる「元寇」を描いた絵画資料「蒙古襲来絵詞」の画像を読み解いていこう。</p> <p>・元軍と御家人・竹崎季長の戦闘を描いているが、どちらが優勢だと思えるか。 そのように思う理由はなにか。</p> <p>・竹崎季長は、自らの苦戦の様子をなぜ、絵画に描かせたのか。</p> <p>教科書では、1274年と1281年の2回にわたる元軍の襲来を「蒙古襲</p>	<p>T. 発問する P. 答える</p> <p>T. 発問する P. 答える</p>	<p>・元軍が優勢だと考える。 元軍は、集団戦術をとり、毒矢や「てっはう」など、御家人にとって新兵器を用いている。一騎打ち戦術をとる竹崎季長の馬は深手を負っている、等。</p> <p>・強い軍事力を誇る元軍の襲来に対し、苦戦し被害を受けながらも、「国」（幕府）を守るためによく戦い奉公したことを幕府にうたえるとともに、自分の業績を後世に残そうとしたのではないか。</p>

<p>来（元寇）」と記述している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2つの歴史用語の使い方には、どのような背景があるか。 <p>教科書では、1274年の戦闘を「文永の役」、1281年の戦闘を「弘安の役」と記述している。この用語も、明治期以降定着したものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「～の役」というネーミングには、どのような意味があるか。 <p>○近代日本の政府が、歴史用語として「元寇」、「文永・弘安の役」を広め定着させようとしたのはなぜか。</p>	<p>T. 説明する</p> <p>T. 説明する</p> <p>T. 発問する P. 答える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本では、対蒙古（元）戦争のことを、当時は「蒙古合戦」、「蒙古襲来」と称した。 ・「元寇」という用語は、幕末から明治期にかけて日本の歴史書のなかで定着してきた。「寇」という漢字は、「こそどろ」、「強盗」といった意味を持つ。 ・「～の役」というネーミングには、「朝廷の威光を辺境に及ぼす遠征」という意味がある。 <p>○明治以降の日本政府が、「蒙古襲来」という史実に対し、「元寇」、「文永・弘安の役」という用語を定着させたのは、当時侵略の対象としていた中国や朝鮮に対する日本国民の敵愾心をあおり、国民の団結と政策への支持を取り付けるためであると考えられる。</p>
<p>歴史家になったつもりで「新安沈船」のなぞにチャレンジしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつ沈没したか。 ・船は、どこからどこへ向かっていたのだろう。 ・荷主は誰か。そのことと関わり、この貿易船の目的としてどのようなことが考えられるか。 ・乗組員はどこ出身か。 <p>○「蒙古襲来（元寇）」の史実からは、日本と元は、国家間で戦争をしていた。これに対して、「新安沈船」の史実は、日元関係について、私たちにどのような歴史理解を促すか。</p>	<p>T. 作業課題を指示する P. 資料（情報）をもとに答える。</p> <p>T. 発問する P. 答える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1323年ではないか。木簡のなかに「至治三年」（1323年）と書いたものが数多く有る。 ・中国の寧波（慶元）を出航して、日本の博多をめざしていたと考えられる。 ・京都の禅寺・東福寺や福岡の管崎宮などが荷主と考えられる。これらが、神社・仏閣の修造費を貿易の利益によりまかなおうとしたのではないか。 ・船から引き上げられた日用品の種類から、乗組員は日本・中国・朝鮮の民族混成であったと考えられる。 <p>○13世紀後半以降の日元関係において、「国家」間の戦争とは裏腹に、民間レベルでは平和裡に、「国家」間交渉を超越した東シナ海を舞台とする海上交易ネットワークが繁栄していた。</p>
<p>本時の学習問題について考え、まとめよう。</p> <p>◎「歴史を書く」とはいかなることか。</p> <p>◎「歴史を理解する」とはいかなることか。</p>	<p>T. 説明する</p>	<p>◎「歴史を書く」とは、歴史の書き手・語り手が問題意識（問い）にもとづいて事実と解釈（因果・意味・影響など）を構成することである。</p> <p>◎「歴史を理解する」とは、歴史記述の問題意識・事実・解釈の構成を吟味することを通して、自分なりの歴史像を構成することである。</p>

(梅津 正美)

平成20年度 徳島県10年経験者研修 生徒指導関係

評 価 基 準 案

1	93	生徒指導等(1)	08/07/24
2	95	生徒指導等(2)	08/07/29
3	96	生徒指導等(3)	08/07/30
4	97	生徒指導等(4)	08/07/31
5	98	生徒指導等(5)	08/08/04
6	99	生徒指導等(6)	08/08/05
7	100	生徒指導等(7)	08/08/07
8	101	生徒指導等(8)	08/08/20
9	103	生徒指導等(9)	08/09/30
10	104	生徒指導等(10)	08/10/03
11	105	生徒指導等(11)	08/12/25

生徒指導等(1)

日程：2008/07/24

(1) 目的

「絵本とその読み聞かせ」によって、いかに学力をつけ、いじめを防ぐかを学ぶ。

(2) 主催

鳴門教育大学・徳島県立総合教育センター

(3) 期日

平成20年7月24日(木)

(4) 会場

鳴門教育大学 人文棟6階 A3会議室

(5) 対象者

- ア 職種 教員
- イ 校種 幼・小・中・高・特
- ウ 定員 40人程度

(6) 内容

- 1 読み聞かせの実技練習
- 2 絵本の仕掛けとその読み聞かせの教育的意義

講師：鳴門教育大学 教授 余郷 裕次

(7) 日程

- 9：30～9：50 受付（地域連携センター1階）
- 9：50～10：00 諸連絡
- 10：00～12：00 講義・実技

- 1 絵本の読みの実技を通して、相手に声を届ける発音・発声の方法を体験する。
- 2 絵本の読み聞かせの4原則を理解する。
 - ① 絵本は楽しみとして与える。
 - ② 絵本は大人が子どもに音読する。
 - ③ 繰り返し読む。
 - ④ 感想をもとめない。質問をしない。

12：00～13：00 昼食

13：00～14：20 講義

- 1 絵本の正面性・色彩・画面配置の仕掛けの効果を理解する。
- 2 絵本モンタージュの仕掛けを理解する。
- 3 読み聞かせと「母親語」との関係を理解する。

14：40～15：55 演習・講義

- 1 絵本による情報操作能力の育成について理解する。
- 2 「絵本とその読み聞かせ」による、いじめの防止方法を理解する。

15：55～16：00 アンケート，閉講

作業課題：絵本の読み聞かせの実技演習

評価基準

ランク S

生まれたばかりの子どもを見つめる母親のようなまなざしで、相手の存在を察しながら、適切な技で読み聞かせを演じることができた。

ランク A

相手を自分のペースに巻き込みながら、自分の読み聞かせを展開することができたが、相手と自分が創り出す「分かち合いの場」をもっと意識する必要があると思った。

ランク B

読み聞かせのために必要とされる基本的な表現の技を生かすことはできたが、自分と他者との「分かち合い」の場に身を置くことができるようにしなければならないと思った。

生徒指導等(2)

日程：2008/07/29

(1) 目的

生徒指導及びクレーム対応の研修を行うことを通して、資質の向上を図り、生徒指導及び保護者対応スキルの充実を図る。

(2) 主催

徳島県立総合教育センター

(3) 期日

平成20年7月29日(火)

(4) 会場

徳島県立総合教育センター 3階 研修室2

(5) 対象者

- ア 職種 教職10年目の教諭等
- イ 校種 小・中・高・特
- ウ 定員 18人(ただし、午後は主幹教諭30人と合同で研修)

(6) 内容

- ア 問題行動への対応
- クレームへの対応

(7) 日程

- 9:30~9:55 受付
- 9:55~10:00 諸連絡
- 10:00~12:00 講義・演習「問題行動への対応(仮題)」

講師 特別支援・相談課 指導主事

12:00～13:00 昼食

13:00～15:50 講義・演習「保護者のクレームへの対応」

～その理論とワークショップ～

講師 東大阪大学 教授 古川 治

15:50～16:00 アンケート，諸連絡

7月27日（古川先生）

作業課題

- ・講義を聞いた後，6人×5グループをつくる。
- ・各グループで保護者からどのようなクレームの現状があるのか，意見を出し合う
- ・各グループで話し合ったことを模造紙にまとめて，全体で発表する。
- ・教師役，保護者役，校長役を決め，ロールプレイングを行う。
- ・ロールプレイングに対して省察を行う。

評価基準

ランク S

学校と保護者との良好な関係づくりのために，どのようなことに心がければよいか理解することができた。ロールプレイングを通して，保護者の立場に立ってクレームを聞き，誠実に対応することの大切さを実感するとともに，今後，保護者とより良好な関係つくっていくための具体的な方策をイメージすることができた。

ランク A

学校と保護者との良好な関係づくりのために，どのようなことに心がければよいか理解することができた。ロールプレイングを通して，保護者の立場に立ってクレームを聞き，誠実に対応することの大切さを実感することはできたが，今後，保護者とより良好関係をつくっていくための具体的な方策をイメージする必要があると思った。

ランク B

学校と保護者との良好な関係作りのために，どのようなことに心がければよいか理解することはできたが，ロールプレイングを通して，保護者の立場に立ってクレームを聞き，誠実に対応することの大切さを実感したり，今後，保護者とより良好な関係をつくっていくための具体的な方策をイメージしたりする必要があると思った。

生徒指導等(3)

日程：2008/07/30

(1) 目的

教育相談の理論と実践の研修を通して、資質の向上を図り、教育相談の充実を図る。

(2) 主催

徳島県立総合教育センター

(3) 期日

平成20年7月30日(水)

(4) 会場

徳島県立児童相談所

(徳島市昭和町5丁目5番地の1 TEL. 088-622-2205)

(5) 対象者

- ア 職種 教職10年目の教諭等
- イ 校種 小・中・高・特
- ウ 定員 40人

(6) 内容

- ア 特別支援教育
- イ 児童相談所の業務
- ウ 事例研究

(7) 日程

- 9:30～9:50 受付(児童相談所)
- 9:50～10:00 諸連絡

- 10：00～11：45 講義「特別支援教育について」
講師 特別支援・相談課 指導主事
- 11：45～12：00 質疑応答
- 12：00～13：30 昼食
- 13：30～14：30 講義「児童相談所の業務について」
講師 徳島県中央児童相談所
- 14：40～15：50 班別研修「事例研究」「施設見学」
講師 徳島県中央児童相談所
- 15：50～16：00 アンケート，諸連絡，閉会

作業課題

徳島中央児童相談所の業務や学校との連携のあり方について理解し，日々の生徒指導で抱えている問題事例を紹介し合いながら，それらの解決への道筋を話し合う。

ランク S

施設の目的や特質，学校との連携のあり方について理解し，日々の生徒指導で抱えている問題の解決への道筋を明確に見だし，具体的な対処の方針を話すことができた。あるいは，紹介された問題事例に自分自身が遭遇した場合に，適正な対処の仕方を具体的に話すことができた。

ランク A

施設の目的や特質，学校との連携のあり方について理解し，事例研究で話し合われた内容を理解することはできたが，自分自身の今後の生徒指導の実践に結びつけて，具体的な方針を話す必要があると思った。

ランク B

施設の目的や特質については理解できたが，学校との連携のあり方についてはもっと理解を深める必要があると思った。また，事例研究では，漠然とした感想を話すことができた。

生徒指導等(4)

日程：2008/07/31

(1) 目的

いじめの心理特徴を理解し、対応策を考究する。さらに、その指導・援助のスキルを習得する。

(2) 主催

徳島文理大学・徳島県立総合教育センター

(3) 期日

平成20年7月31日(木)

(4) 会場

徳島文理大学 9号館 8階 ゼミ室

(5) 対象者

ア 職種 教員

イ 校種 小・中・高

ウ 受講者 40人

(6) 内容

ア いじめの心理特徴及び心理的援助・支援の基本

イ グループ力動と学校でのグループ場面の活用

(7) 日程

9:30～9:50 受付(9号館8階ゼミ室)

9:50～10:00 諸連絡, オリエンテーション

10:00～12:00 講義「いじめの心理社会的特徴及び心理的援助の基本について」

講師 笠井 達夫 教授

(内容) いじめの心理社会的特徴及びその発現機制について理解を深め、それを踏まえての学級運営、被害者・加害者に対する心理的援助・支援の方法に関する基礎的学習を行う。

12:00～13:00 昼食

13:00～15:50 講義・実習

「いじめ問題とロールプレイング」

講師 牧 裕夫 准教授

(内容) ① 学校現場でのロールプレイング

② いじめの背景にあるグループ力動の体験

③ いじめ問題でのロールプレイングの活用について、ワークショップ形式で進める。

15:50～16:00 アンケート，閉講

作業課題

ロールプレイングの演習を通して、いじめの背景にあるグループ力動の特徴を体験し、生徒指導場面でのロールプレイングの活用方法について考える。

評価基準

ランク S

いじめとその背景にあるグループ力動の特徴を理解し、自己と他者への理解を深めると同時に、日々の生徒指導場面において、いじめを防止する具体的な方策や指導方法を具体的にイメージすることが可能になり、このようなグループ力動の研究をさらに深めていきたいと思った。

ランク A

いじめとその背景にあるグループ力動の特徴を理解し、自己と他者への理解を深めることはできたが、日々の生徒指導場面において、いじめを防止する具体的な方策や指導方法を具体的にイメージする必要があると思った。

ランク B

いじめとその背景にあるグループ力動の特徴を理解することはできたが、自己と他者への理解をもっと深めることや、日々の生徒指導場面において、いじめを防止する具体的な方策や指導方法をもっと具体的にイメージする必要があると思った。

生徒指導等(5)

日程：2008/08/04

(1) 目的

消費者トラブルの現状と課題を把握し，消費者教育の指導法を学ぶとともに，実践的指導力を身に付ける。

(2) 主催

徳島県立総合教育センター

(3) 期日

平成20年8月4日(月)

(4) 会場

徳島県立総合教育センター 3階研修室1

(5) 対象者

- ア 職種 教諭等
- イ 校種 幼・小・中・高・特
- ウ 定員 30人

(6) 内容

- ア 消費者教育概論
- イ 消費者教育の学習方法

(7) 日程

- 9：30～9：50 受付（総合教育センター3階研修室1前）
- 9：50～10：00 諸連絡
- 10：00～12：00 講義・演習「実践！消費者教育（仮題）」

(財)消費者教育支援センター主任研究員 柿野成美

12：00～13：00 昼食

13：00～15：50 講義・グループ演習「様々な消費者問題（仮題）」

徳島県消費者情報センター職員

15：50～16：00 アンケート，閉講

作業課題

消費生活トラブルの実態と問題の解決に関する情報を獲得し，現実に子どもたちに発生している（発生していた）消費者トラブルの実態と問題の解決に向けての具体的な留意事項や方策を話し合う。

ランク S

子どもたち（生徒たち）に発生している（発生した）消費生活トラブルの実態と問題の解決に向けての道筋を明確に把握し，子ども（生徒）への指導方法や保護者との連携方法について，他者が納得できるように具体的に話すことができた。

ランク A

子どもたち（生徒たち）に発生している（発生した）消費生活トラブルの実態と問題の解決に向けての道筋を把握することはできたが，子ども（生徒）への指導方法や保護者との連携方法について，他者が納得できるように具体的に話す必要があると思った。

ランク B

子どもたち（生徒たち）に発生している（発生した）消費生活トラブルの実態と問題の解決に向けての道筋を漠然と把握することはできたが，自分自身の生徒指導に具体的に生かす方法を話す必要があると思った。

生徒指導等(6)

日程：2008/08/05

(1) 目的

児童自立支援施設の活動を体験し、生徒指導及び教育相談の在り方を再点検することにより、資質の向上を図り、生徒指導及び教育相談の充実を図る。

(2) 主催

徳島県立総合教育センター

(3) 期日

平成20年8月5日(火)

(4) 会場

徳島県立徳島学院・鳴門市大麻中学校広塚分校
(鳴門市大麻町板東字広塚42 Tel. 088-689-1121, 1219)

(5) 対象者

- ア 職種 教職10年目の教諭等
- イ 校種 小・中・高・特
- ウ 定員 25人

(6) 内容(予定)

- ア 補充学習、作業・部活動の指導
- イ 徳島学院・広塚分校の業務

(7) 日程(予定)

- 9:30～9:45 受付(徳島県立徳島学院)
- 9:45～10:00 諸連絡

- 10：05～10：45 演習「補充学習」
11：00～11：40 演習「寮作業の体験」
11：50～12：30 講義「業務概要説明」
徳島学院職員，大麻中学校広塚分校職員
12：30～13：30 昼食
13：45～15：00 演習「部活動」
15：10～15：50 協議・意見交換
徳島学院職員，大麻中学校広塚分校職員
15：50～16：00 アンケート，諸連絡

作業課題

徳島県立徳島学院で，この施設の目的と特質をふまえながら，生徒と指導者が展開している協働作業に参加し，これらの体験に基づいて気づいたことや考えたことを話し合う。

ランク S

施設の目的や特質を理解し，共同作業の中で前向きに生きていこうとする生徒たちの姿（エネルギー）に着目しながら，気づいたことや考えたことを具体的に話すと同時に，自分自身の日々の生徒指導に対して新しい可能性がみえてきたことを具体的に話すことができた。

ランク A

施設の目的や特質を理解し，協働作業を通して気づいたことや考えたことを具体的に話すことはできたが，自分自身の生徒指導に関連づけ，新しい可能性がみえてきたことを具体的に話す必要があると思った。

ランク B

施設の目的や特性を理解し，協働作業に関しては，漠然とした感想を話すことができた。

生徒指導等(7)

日程：2008/08/07

(1) 目的

少年非行の現状と生活実態を知ることにより、学校における生徒指導上の問題点を明らかにし、その解決のための方策を考える。

(2) 主催

徳島県立総合教育センター

(3) 期日

平成20年8月7日(木)

(4) 会場

徳島県警察本部(徳島市万代町2丁目5番地の1 TEL. 088-622-3101)

(5) 対象者

- ア 職種 教職10年目の教諭等
- イ 校種 小・中・高・特
- ウ 定員 50人

(6) 内容(予定)

- ア 少年非行の現状
- イ 県警の業務・施設

(7) 日程

- 9:30~9:50 受付(徳島県警察本部)
- 9:50~10:00 諸連絡
- 10:00~11:50 講義「少年非行の現状について」

講師 徳島県警察本部

質疑応答

11：50～12：00 諸連絡

12：00～13：30 昼食

13：30～15：50 施設見学（通信司令室・交通管制センター）

講義「業務説明」

講師 徳島県警察本部

質疑応答

15：50～16：00 アンケート，諸連絡

作業課題

徳島県警察本部で，少年非行の現状と警察本部の業務の特質を理解し，施設を見学する。

ランク S

少年非行の現状とこれに対処している警察本部の業務を理解し，反社会的な行動に陥りがちな子どもたちを補導する活動や，反社会的な行動に陥った子どもたちの状況を具体的にイメージし，生徒指導として問題行動に対処する自分自身の考えに，新たな視点や課題意識を持つことができた。

ランク A

少年非行の現状とこれに対処している警察本部の業務を理解し，反社会的な行動に陥りがちな子どもたちを補導する活動や，反社会的な行動に陥った子どもたちの状況を具体的にイメージすることができた。

ランク B

少年非行の現状とこれに対処している警察本部の業務を理解し，非行に陥り，警察に関わった子どもたちの状況を漠然とイメージすることができた。

生徒指導等（８）

日程：2008／08／20

思春期における問題行動の心理機制と指導・援助の基本

(1) 目 的

思春期の心理特徴を理解し、その特質に応じた対応策についての知識・スキルを習得する。

(2) 主 催

徳島文理大学・徳島県立総合教育センター

(3) 期 日

平成20年 8月20日（水）

(4) 会 場

徳島文理大学 9号館 8階9801教室・8階ゼミ室 ・ 6階9603教室

(5) 対象者

ア 職種 教員
イ 校種 小・中・高
ウ 定員 40人

(6) 内 容

ア 思春期の心理特徴，心理的援助・支援の基本
イ グループ力動，学校でのグループ場面の活用
ウ ストレス解消法としての自律訓練法の実習

(7) 日 程

9：30～9：50 受付（徳島文理大学 9号館 8階ゼミ室(1)）
9：50～10：00 諸連絡

10：00～11：40 講義「思春期の心理特徴と心理的援助の基本」

講師 高橋 由伸 教授

思春期の心理特徴及び問題行動の発現機制について理解を深め、それを踏まえての心理的援助・支援の方法に関する基礎的学習を行う。

11：40～12：40 昼食

12：40～14：10 講義・実習「サイコドラマの基礎体験」

講師 牧 裕夫 准教授

- ① サイコドラマについての説明
- ② ワークショップ形式による体験学習

14：20～15：50 講義・実習「ストレスと自律訓練」

講師 齋藤通明 教授

- ① ストレスとは
- ② ストレス度の測定法
- ③ ストレスによる障害
- ④ ストレス解消法（予防法）
- ⑤ 自律訓練法の実習

15：50～16：00 アンケート，閉講

作業課題

思春期の心理的特徴や問題行動の発現機制，心理的援助・支援の方法についての知識をふまえながら，サイコドラマの演習を通して，思春期の子どもたちと関わる方法を考える。

ランク S

思春期の心理的特徴や問題行動の発現機制，心理的援助・支援の方法について理解し，日々の学級経営や教育相談，特別指導等の場面において，思春期の子どもたちと関わる具体的な方策や指導方法を，勤務校の実態にあわせてイメージすることが可能になり，このようなグループ力動の研究をさらに深めていきたいと思った。

ランク A

思春期の心理的特徴や問題行動の発現機制，心理的援助・支援の方法について理解し，日々の学級経営や教育相談，特別指導等の場面において，思春期の子どもたちと関わる具体的な方策や指導方法を知ることができたが，勤務校の実態にあわせてイメージする必要があると思った。

ランク B

思春期の心理的特徴や問題行動の発現機制，心理的援助・支援の方法について，これまでの現場経験をふまえて，漠然と理解することはできたが，思春期の子どもたちと関わる具体的な方策や指導方法をもっと具体的にイメージする必要があると思った。

生徒指導等（9）

日程：2008／09／30

(1) 目 的

人間関係トレーニングを行うことにより，幼児児童生徒はもとより，同僚教員・保護者・地域の人々等との円滑な人間関係を形成する能力や態度を養い，今後の教育活動に生かす。

(2) 主 催

徳島県立総合教育センター

(3) 期 日

平成20年9月30日（火）

(4) 会 場

徳島県立総合教育センター 3階 研修室1

(5) 対象者

ア 職 種 教職10年目の教諭等
イ 校 種 幼・小・中・高・特
ウ 定 員 40人程度

(6) 内 容

ア ミニレクチャー
イ レクリエーションワーク
ウ ロールプレイング

(7) 日 程

9：30～9：50 受付
9：50～10：00 諸連絡

- 10：00～12：00 講義・演習
ミニレクチャー「育ちあう人間関係」
ヒーリングレクワーク
「共感とリラクゼーションの体験学習ーカウンセリングマッサージー」
講師 自然スクールTOEC 代表 伊勢達郎
- 12：00～13：00 昼食
- 13：00～15：50 講義・演習
ロールプレイング「聴くレッスン」
コミュニケーションワーク「勇気づけゲーム」
ふりかえり，わかちあい，まとめ
講師 自然スクールTOEC 代表 伊勢達郎
- 15：50～16：00 アンケート，諸連絡

作業課題

ヒーリングレクワーク（カウンセリングマッサージー）やロールプレイ等の人間関係トレーニングを通して，これまで自分が行ってきた子どもや同僚などとの関わり方を振り返り，他者の思いを感じ取るための手がかりを獲得するとともに，これからの円滑な人間関係を形成するための具体的な留意事項や方策について話し合い，現場に生かす方法を考える。

ランク S

人間関係トレーニングで体験した様々な手法を通して，自分自身のこれまでの他者との関わり方を見直し，他者の声を聴き取り，これからの円滑な人間関係の形成に向けての道筋を見いだす方法を具体的にイメージすることが出来，これからの教育相談等に活用していけるように思った。

ランク A

人間関係トレーニングで体験した様々な手法を通して，自分自身のこれまでの他者との関わり方を見直し，他者の声を聴き取り，これからの円滑な人間関係の形成に向けての道筋を見いだす方法を具体的にイメージすることは出来たが，自分自身のこれからの教育相談等に具体的に活用していくためには，さらに実践を重ねていく必要があると思った。

ランク B

人間関係トレーニングで体験した様々な手法や留意点を新たに知ることはできたが，他者の声を聴き取る過程において，これからの円滑な人間関係の形成に向けての道筋を見いだす方法をもっと具体的にイメージしていく必要があると思った。

生徒指導等(10)

日程：2008／10／03

(1) 目 的

カウンセリングに関する理論と実践の研修を通して、教育相談の指導力向上を図り、今後の生徒指導に生かす。

(2) 主 催

徳島県立総合教育センター

(3) 期 日

平成20年10月3日（金）

(4) 会 場

徳島県立総合教育センター 3階 研修室3

(5) 対象者

- ア 職種 教職10年目の教諭等
- イ 校種 小・中・高・特
- ウ 定員 30人

(6) 内 容

いくら適切なアドバイスを与えても、相手に実行してもらえないのでは意味がありません。この研修では、相手に実行してもらえる効果的なアドバイスをどのように組み立てるのか、演習を交えながら解説していきます。

(7) 日 程

9：30～9：55 受付

9：55～10：00 諸連絡

- 10：00～12：00 講義・演習「効果的なアドバイスの与え方（その1）話の聴き方」
講師 和歌山カウンセリングセンター 代表 入谷 好樹
- 12：00～13：00 昼食
- 13：00～16：50 講義・演習「効果的なアドバイスの与え方（その2）
アドバイスの組み立て方」
講師 和歌山カウンセリングセンター 代表 入谷 好樹
- 15：50～16：00 アンケート，諸連絡

作業課題

三者面談や生徒指導にかかる保護者との面談において、これまで自分が行ってきた保護者面談や教育相談の進め方を振り返り、自分なりの工夫や効果的な対応について、改善していこうとしていく手がかりを掴み、これからの保護者面談や教育相談における具体的な留意事項や方策について話し合い、現場に生かす方法を考える。

ランク S

保護者との面談に関する様々なアイデアや留意点を参考にしながら、自分自身のこれまでの方法を見直し、保護者の声を聴き取る過程で保護者の望む方向を見つけ、保護者とともに問題の解決に向けての道筋を見いだす方法を具体的にイメージすることが出来たので、これからの面談等に活用していけるように思った。

ランク A

保護者との面談に関する様々なアイデアや留意点を参考にしながら、自分自身のこれまでの方法を見直し、保護者の声を聴き取る過程で保護者の望む方向を見つけ、保護者とともに問題の解決に向けての道筋を見いだす方法を具体的にイメージすることが出来たが、自分自身のこれからの面談等に具体的に活用していくためには、さらに実践を重ねていく必要があると思った。

ランク B

保護者との面談に関する様々なアイデアや留意点を新に知ることはできたが、保護者の声を聴き取る過程で保護者の望む方向を見つけ、保護者とともに問題の解決に向けての道筋を見いだす方法を自分なりにもっと具体的にイメージしていく必要があると思った。

生徒指導等(11)

日程：2008／12／25

(1) 目的

子どもの自己表現する力の育成のため，教師自らがアサーショントレーニングの意義や手法について学習し，今後の生徒指導に生かすとともに，指導力も向上を図る。

(2) 主催

徳島県立総合教育センター

(3) 期日

平成20年12月25日（木）

(4) 会場

徳島県立総合教育センター 3階 研修室2

(5) 対象者

- ア 職種 教職10年目の教諭等
- イ 校種 小・中・高・特
- ウ 定員 40人程度

(6) 内容

- ア 不登校
- イ いじめ

(7) 日程

9：30～9：50 受付（3階 研修室2）

9：50～10：00 諸連絡

10：00～12：00 講義・演習「アサーショントレーニング」

講師 神戸大学発達科学部附属明石中学校 教諭 黒木 幸敏

12：00～13：00 昼食

13：00～16：50 講義・演習「アサーショントレーニング」

講師 神戸大学発達科学部附属明石中学校 教諭 黒木 幸敏

15：50～16：00 アンケート，諸連絡

作業課題

相互尊重の人間関係を促進するためのコミュニケーション・スキルである“アサーション（assertion）”を通じて、指導者としての自己表現の在り方を点検するとともに、自らの気持ちを適切に表現する手法を理解し、これからの児童生徒とのコミュニケーション活動を改善していく手がかりを掴む。

ランク S

“アサーション”が、より良い人間関係を築くために、自分も相手も大切にしたい自己表現法であることを理解し、提示された3つの自己表現の意味と意義を参考にしながら、自分自身のこれまでのコミュニケーション活動を見直すことが出来た。また、他人に言いにくいことを伝える時に役立つ“DESC法”のコツを掴むによって、児童生徒とのコミュニケーション活動を改善していく手だてを具体的にイメージすることが出来たので、これからの生徒指導に活用していけると思った。

ランク A

“アサーション”が、より良い人間関係を築くために、自分も相手も大切にしたい自己表現法であることを理解し、提示された3つの自己表現の意味と意義を参考にしながら、自分自身のこれまでのコミュニケーション活動を見直すことや、他人に言いにくいことを伝える時に役立つ“DESC法”によって、児童生徒とのコミュニケーション活動を改善していく手だてを具体的にイメージすることが出来たが、これからの生徒指導に活用していくためには、さらに現場で実践を重ねていく必要があると思った。

ランク B

“アサーション”が、より良い人間関係を築くために、自分も相手も大切にしたい自己表現法であることは理解出来たが、提示された3つの自己表現の意味と意義を参考にしながら、自分自身のこれまでのコミュニケーション活動を見直すことや、他人に言いにくいことを伝える時に役立つ“DESC法”によって、児童生徒とのコミュニケーション活動を改善していく手だてが具体的にイメージしにくく、さらに研修を行っていく必要があると思った。

(参考)

アサーション（assertion）…主張・断言・権利などと和訳されますが、ここでは「(さわやかな)自己表現」と解されます。

(長島 真人)

【講座名】：小中高英語教育連携講座（2008年8月19－21日）

講師 曾我部裕司 先生（徳島県立総合教育センター・教職員研修課）
伊東 治己 先生（鳴門教育大学）

【研修の目的】

「生徒の4技能のバランスがとれた英語力を養う」とともに、「生徒が進んで英語を学ぼうとする態度を育成する」ための、効果的な授業の在り方を考える

【研修の内容】

- ① ワークショップ形式の講義を通して、英語アウトプットを増やすための授業のあり方に関する理論的枠組みを理解する。（講義題目：How to Increase Output in Communicative Classrooms Using English Textbooks）
- ② 上記理論的枠組みをもとにマイクロティーチングの計画を立てる。
- ③ マイクロティーチングのデモンストレーションを行う。
- ④ マイクロティーチングに関し総括する。

【作業課題】

生徒の英語アウトプットを増やすための授業のあり方について、これまでの授業実践を受講生同士で振り返り、専門家によるコメントをふまえながら、模擬授業を準備・実施することを通して、その具体的な方法を考える。

ランク S

生徒の英語アウトプットを増やすための授業のあり方について、自身の課題を明らかにするとともに、その具体的な方法論を知ることができた。さらに具体的な授業場面における指導実践をイメージすることができた。

ランク A

生徒の英語アウトプットを増やすための授業のあり方について、自身の課題を明らかにするとともに、その具体的な方法論を知ることができたが、さらに実際の授業場面における指導実践をイメージする必要があると思った。

ランク B

生徒の英語アウトプットを増やすための授業のあり方に関して、自身の課題を明らかにすることはできたが、その具体的な方法論や実際の授業場面における指導実践についてさらに理解を深める必要があると思った。

（山森 直人）

10年経験者研修プログラム開発ワーキンググループ委員名簿

【平成19年度】

主査	鳴門教育大学	地域連携センター	教授	梅澤	実	
	鳴門教育大学	地域連携センター	准教授	豊成	哲	
	鳴門教育大学	地域連携センター	准教授	藤原	伸彦	
	鳴門教育大学	実技教育研究指導センター	准教授	山田	芳明	
	徳島県教育委員会	教職員課	人材育成担当	管理主事	森口	雅彦
	徳島県立総合教育センター	学校支援課	総合研修担当	班長	野々村	拓也
	徳島県立総合教育センター	学校支援課	総合研修担当	指導主事	石丸	憲治

【平成20年度】

	鳴門教育大学	学長補佐		山下	一夫	
	鳴門教育大学	基礎・臨床系教育部	准教授	久我	直人	
	鳴門教育大学	基礎・臨床系教育部	准教授	阪根	健二	
	鳴門教育大学	基礎・臨床系教育部	准教授	豊成	哲	
	鳴門教育大学	基礎・臨床系教育部	准教授	藤原	伸彦	
	鳴門教育大学	人文・社会系教育部	准教授	梅津	正美	
	鳴門教育大学	人文・社会系教育部	准教授	山森	直人	
主査	鳴門教育大学	芸術・健康系教育部	准教授	長島	真人	
	鳴門教育大学	芸術・健康系教育部	准教授	山田	芳明	
	川口短期大学	こども学科	教授	梅澤	実	
	関西国際大学	教務部長		福留	純郎	
	徳島県教育委員会	教職員課	人材育成担当	統括管理主事	森口	雅彦
	徳島県立総合教育センター	教職員研修課	教職研修担当	班長	藤田	完
	徳島県立総合教育センター	教職員研修課	教職研修担当	指導主事	糸木	秀明